

<p>小松部会長</p>	<p>あともう一つ、教員向けの研修体系を考えたときに、教員というプロの世界で、「すごい先生というのはこういうものだ」というような考え方で行われてきた傾向があります。教師の世界ではこうなただけれど、市民に対するアカウントビリティとか、市民のニーズとか、あるいは川崎市の学校を変えようということになると、一般の人たちは、教員の世界での考え方と違うところがあるかもしれません。つまり、市民ニーズを踏まえた研修を入れていくというのも考えていかななくてはいけないと思います。</p> <p>そう具体的になってくると、教師はこういうことを研修したいけれども、親とか、あるいは行政というか、教育改革からしたら「これも勉強してもらわなければ困るよ、こういう力もつけてもらわなければ困るよ」ということもかなりあるではないですか。それは必ずしも一致するとは限らないですね。そうすると、一致すればめでたしめでたしなただけれど、一致しないときの問題は、誰がそこで判断をするのか、ということについて問われているわけですね。それはさっきまで学力についての、先生たちは自分の考える学力が、こうだと思うから、それをつけるためにこういう研修をやりなさいということになる。しかし、保護者の人たちは自分の子どもに教えてほしい、身につけさせてほしい学力はこうだから先生にもそういう授業のやり方なんかを研修してほしいといったときに、実は今、問題になっているのはそれがずれているわけでしょう。率直にいうと。それはでは誰がどっちに軍配を上げるんですかという議論です。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>だから、きょうの議論の前提にもなりますが、教育関係の審議会はどこでもそうですけれど、教育に造詣深い人が来るわけです。それはもう一般の学校に寄り付かない市民とは全然違うところで「いい施策ができました」と言っていることなんです。</p> <p>それに加わる人というのは、教師・教育学者です。あとPTA。市民代表でいらっしゃっている人がそういう中で、なかなか発言しにくいとさっきもおっしゃいましたけれど、教育問題なただけれど、今、構造的に問われているから、もっと別な人を入れていくという場を考えていく。市民の割合を半々に近づけてやっていくとか、あるいは教育関係でない人ばかりで勝手に話したっていいので、自由に話していただいて、それをまた専門家の人たちが踏まえるか、そういうような審議会のあり方というのを提言してもいいかもしれないと思います。そういうことを考えていかないとずれてしまって、その行く先が、公立をやめて私立にしまししょうねという、そういうふうになっていくわけです。ですから、市民の考え方というものを前提というか、もっと取り入れて、そういう意味で研修も考えていかなければならないと思います。</p> <p>地域運営学校もそういう形でやっていくなれば意味があると思います。そうしないと、あまり市民は参加しないのではないかと思います。与えられた役割を果たすだけにしか参加しないということだと余り大したものにはならない</p>

	<p>でしょう。ということで、そういう委員会を作るならば市民を半数以上入れるようなことをやっていかないと、結局は何か普通の学校が、何かちょっとやったなという感じで終わってしまうのではないか。そうでない学校を地域運営学校がつくっていくという点で、市民の力を活かすというか、市民の意見に基づいてやりますという方向で、大胆なものをやらないといけない。どうせやるなら徹底して新しいものを、教育の専門家の考え方だけでなく市民ニーズを重点化してやっていく必要があると思います。</p>
平野委員	<p>そうすると、それは拡大教育委員会に見えるのですが、ここには教育の専門家や川崎の教育に係る当事者だというふうになってはいますが、先生がおっしゃるような程度市民の方も多く入ってみたい、そういうイメージなのですか。</p>
高橋委員	<p>それは教育委員会のメンバーとの関係がありますね。教育委員会の施策を専門的、効果的にやるための市民であれば専門家が必要だけれど、そうではなくて普通の意見を反映させてやるということになるとむしろ専門家ではないほうがいいということです。</p>
小松部会長	<p>そもそも教育委員会の趣旨はそうだったはずではないですか。教育の専門家ではない人たちが教育委員として選ばれてやる。方針を決めるのでしょうか。私が拡大教育委員会を提案したのは、それはそれでもう一回ちゃんと機能させましょう、ただし、どうも今、ずれてきている。健全な一般市民の意見が教育委員会でちゃんと議論されるようになることが一つ。それがあつために教育委員会制度を守ろうとすればそうなる。</p> <p>しかしもう一方で今の教育改革の中で、校長先生もそうだし、学校の教職員の人たちが当事者であるにもかかわらず、「やらされている」という意識が非常に強いし、疲労感というか、そういうのが強くて、どうも現場で担う教職員たちが今回の教育改革についての考え方について、自分たちは被害者でないけれども、自分たちの批判が通っていないというふうなことがあるから、大きなところで、高橋さんの言った教育委員会の意味をもう一回きちっとやると同時に、当事者たちに発言の機会、積極的にかかわる機会を保障して、そこである程度基礎的な議論を、まさに現場に即した議論をしてもらって、それについてももちろん市民の視点から、最終的には今の教育委員会制度を前提とすれば、最終的には教育委員会で決定してもらおう。そのときに、しかし当事者であり、各専門家である人たちの意見をしっかり踏まえた形で大所高所から判断してもらおうというシステムとして提案した話であつて、一番今気になるのは、頑張つてほしい先生たちが知らないところ、中央とか川崎市教育委員会から自分の学校にドーンと来るだけではなくて、「自分たちがやりたい教育、自分たちが毎日毎日子どもに接して思つ問題みたいなことも、教育改革としてそれぞれ教えてくださいよ」と、ある種ボトムアップ型の教育改革の動き、そういうも</p>

<p>高橋委員</p>	<p>のとの組み合わせを考えたらどうでしょうというふうなのが提案の趣旨です。</p> <p>地域運営学校というのは、私がさっき言ったのとまったく逆もあり得ます。つまり学校の先生方がいろいろなしがらみで、本当にしたい教育ができない。「こういうやり方をしたら市民や、子どもたちも喜んでくれるだろう」と思っているけれどできない。「やりたい人たちが集まってどうぞやってください。自由にやっていいですよ」といった学校を、市で3校はつくる。意欲にあふれる先生が集まって、そのときに学区を外せば、要するにそういういい教育を受けたい人がいれば来るし、この学校の人は必ず行くとか、この学区の人は必ずここに行くでなくて、そうすると、むしろやる気のある先生方にやりたい教育を十分やってもらって、それで、いい教育ならばたくさん希望者が増えてくれる。そうしたら「もう一つ作りましょう」みたいな、そういうこともあると思います。</p>
<p>小松部会長</p>	<p>だからコミュニティスクールの議論が出てくる一つの背景に、皆さん御存じのように、今、湘南の学校の先生たち自身がこんな学校を自分たちは作りたいという、どうも教育委員会、文部科学省のよい学校は私たちが思う教育とは違って、それでコミュニティスクールをやっているわけでしょう。そういうのも認めようではないかみたいなのが国会で議論が始まって法律ができてきたわけですから、別にこれは教師たちがやってもいいわけです。問題は肝心の先生たちが元気になってしっかりやらしてもらわないと、結局どんなプランでも現場に降りていったときに骨抜きになったり、変な形になってしまうわけです。そういうので毎日毎日子どもたちを見て、本当に子どもたちのことを考えて工夫をしていっしょだと私は思うけれども、その人たちが、しかし責任を持って、ちゃんと受け入れて、自分のほうからこういう協議をやりたいといって、やりますというようなことを出す、ある意見を言う場を、そろそろ拡大教育委員会と何か間延びした名前じゃなくて、例えば教育審議会とか教育協議会とか、というような呼び名でもいいかなとも思いますが、そこで協議をする。皆で話したりする形のネーミングにしたうえで、それはあくまで川崎市教育委員会の下部機関として、ですから最終的な決定権はなくてもしょうがないわけです。やっぱりそれは教育委員会制度がある以上は最終的には、教育委員会で決めていただく。それから日常的なことは事務局が決めていく。しかし月1回なり2カ月に1回ぐらい、こういう組織を作って、そこに管理職も職員団体の人も保護者の人も入って、少し川崎市民、一般でなくて川崎市の教育、その他の教育にやや濃い関係を持った人たちがまず組織を作ったらどうだろうというのが私の提案の一つです。</p>
<p>平野委員</p>	<p>それは例えば教育委員さん、先ほどレイマンコントロールの話が出ましたけれど、教育委員さんみずからが拡大教育委員会の中に入って、それから教育委員さんの周りを囲むように一緒に議論するということは考えられますか。</p>

小松部会長	<p>形態としてはそれもあるかもしれませんが。国だったら中教審がありますが、文科省の施策を進めるときに中教審という審議会を文科省が組織して、そこでこういうことを議論してくださいとって諮問をして、そこで専門家たちが議論してやるのでしょ。あれはただ基本的には学識経験者とか一般の人たちが入ってやっているのであって、そういう意味では私は、一般的な審議会方式ではなくて、当事者が一堂に会して議論する場というほうがいいような気がしています</p>
中村委員	<p>そういうふうにするためには、例えば、子ども本人、及び保護者の選択責任みたいなものも出てくるのではなでしょうか。例えばこういう先生たちが作ったこういう学校がある。そして、そこに入るときに保護者、及び子どもが選択したという一応責任があるわけだから、自分の責任を果たすために、自分たちもそれにかかわっていくとかたちもあるのではないのでしょうか。</p>
小松部会長	<p>学校整備の話ではないです。川崎市の教育政策の議論の場として拡大教育委員会という組織を改革プランの中に作りませんかというふうなことだけです。</p>
中村委員	<p>そのもう一歩手前のところの、今、先生がおっしゃっていた教職員なんかを作ったらいいという、それをイメージしたのが、例えばスウェーデンなんかは公立とか株式会社であるとか、さまざまな形態がありますね。皆バウチャーでやっていて。それぞれが自分たちの望むところに子どもを預けたりとかしたりするということがありますよね。その代わりかかる費用は一律であるということだけが決まっています。あとは自分たちがどこを選ぶかという、そのどこを選ぶかというのは本人たちの責任で選ぶわけですけれども、そうすると、そういうふうないろんなものがあつたとすれば、選ばれるところと選ばれないところが出てくるわけですよ。</p>
小松部会長	<p>学校側からするとそうですね。</p>
中村委員	<p>学校側からすれば、選ばれるところと選ばれないところが出てくる。それが質の競争という形になると思いますが、結局はそういうところに行き着くと思うし、私はそれがいいと思うんだけど、質ができるだけいいほうがいいわけですから。だからそういう意味の競争というのは一律に何かやらされる競争とは違うだろうからいいと思います。</p>
小松部会長	<p>我々の議論からするとむしろ9ページ・10ページに書いてあるようなことが、例えば10ページの学校裁量権の拡大というふうになんか書いていますけれども、人事や予算における学校の裁量権を拡大しなと書いてあるではないですか。それを本当にやるの、と私は言っているわけです。例えば何々校長</p>

	<p>先生に人事権を与えますと。校長先生、どうぞ、お好きな教員を集めてください。だってそういうことでしょう。人事や予算における学校の裁量権を拡大します。これについては既に幾つかの自治体で、例えば公募制とか教員のF Aみたいな形でやったりするわけです。きょうも東京都へ行ってきて、東京都は教員の公募をやっています。それで、きのう行った学校は15人も入れ替えている。どうですかと聞いたら、それは変わったと言うわけです。校長もやりやすくなったというわけです。今までだったら教育委員会がいろんな条件を考えて、できるだけその学校や地域によって差がないように教職員を配置していたわけです。それは一つのポリシーになるわけです。差がないように、早い話がいろんな教師をトータルで学校に置いて、これは人間ですからいろんな教師たちがいる。でこぼこがないようにしようということです。しかしそれに対して人事や予算における学校の裁量権を拡大します、と僕らがここで書くということは、村上校長先生のところで教師をやりたいという人もいれば、小松みたいな校長とはやりたくないというのが出てくる可能性が十分あるわけです。それを私たちは認めるというか、そういう改革の方向に行く。という方向でいいんですねということを確認したいわけです。</p>
高橋委員	<p>地域運営学校は市内に2校か、せいぜい3校ですから、それはいいと思うんです。だから学校の裁量を拡大したからといって別にすぐ学校を選ぶということにはならない。つまり、ここに書いていないということは、公立学校の選択制は基本的にはやらないということだと思うわけです。</p>
小松部会長	<p>僕らが学校選択制、いわゆる品川のような学区選択はしないと市民説明会でも答えているのではないですか。それが僕らの到達点です。議論の。それを戻すわけにはいかない。</p>
高橋委員	<p>ただ、地域運営学校というのはどう作るかによるけれども、場合によってはここは学区を超えて募集するということになるのだらうと思います。だから、それは例外であって、つまり、川崎の公立学校の生徒の取り合いの競争は出てこないだらうと思います。</p>
小松部会長	<p>先生の取り合い、競争はおきませんか。</p>
高橋委員	<p>「あちらの学校はこんなにいいから、こっちもまねをしなくては」とか、おちおちしてはいられないということにはなると思けど、生徒の取り合いにはならないと思います。</p>
小松部会長	<p>例えば東京の事例を、僕が聞いてきた事例を言うと、うちの学校へ来ませんかと学校が公募したわけです。そうしたらある学校には14人も来た。ところが同じように公募したんだけど誰も希望者がいない学校もあった。この希望</p>

した学校というのはほとんど問題がなくて、ほとんど新しいことをやらなくてもいい楽な学校。こっちの学校は大変な学校。誰も手を挙げて行かない。実態がそうなんです。地域に根差した魅力ある学校づくりを進めるために、人事や予算における学校の裁量権を拡大するということになっているわけですが、校長会ではこの辺、どうなんですか、「いや、もうへたにそんなものいらんよ」ということないですか。今までと同じように平等に、均等に残してほしいというものもありました。校長の力量が問われてくるんです。東京都は支援が必要な学校に、2000万くらいお金を渡しているんです。そうするとある学校は教室にクーラーをつけて終わり。ある学校はちゃんとカリキュラムの方針を基にまさに重点的にお金を使っている。如実にあらわれるんです。今、東京都教育委員会はそれを評価しているんですけど、それはやっぱり校長によって差が出てきていました、明らかに。だから人事や予算の裁量権を拡大したら問われるのが校長のリーダーシップになるわけです。「それでいいんですね」と言いたいわけです。校長会にはこれについてはクレームを出してるんですよ。これは7番目の学校評価と連動しているわけです。学校はちゃんと仕事してますねということと、新たに人事権も予算権も、それは丸々ではないにしても、今言ったように、「いいよ、自分の好きな教員を集めていいよ」という形で付与するわけです。川崎市は2000万は無理かもしれないけれど100万でも200万でも出します。自由に使っていいですよ。自由に使っていいお金と人事権を使って、ちゃんとやっていますかということの評価をやるというわけです。この施策は入れてよろしいんですね。よろしいですね。

中村委員

前のとき、校長がこうしていただくとありがたいという話がありましたよね。それで全権を渡しますという話ではないわけだから、やっぱり今よりある程度の人事権とかお金があったほうがやりやすいということではないでしょうか。

小松部会長

教育委員会が箸の上げ下ろしまでやってくれたら楽は楽なんです。どんな能力のないといっちは悪いけれど、校長でも学校経営ができるんです。ところが自分で意思を働かせてやるということは本当に大変です。教育委員会が全部振り付けしてくれて、箸の上げ下ろしをね。順番に食べなさいよ。とまで言ってくれているわけだから、そうすると無事に定年を迎えられるわけです。しかしへたをすると、別の県ですけど、僕が今かかわっている別の県では校長も教頭も実はノイローゼになって、すごく困っている。そういうケースが出てきます。これをやると。だって校長に協力的な教職員ばかりではないですものね。張り切って校長が何かやろうとすると足を引っ張ったり、あれだめ、これだめという学校が結構あるので。

今井委員

市民の側からすると、そういうリーダーシップを発揮できる、裁量権があっ てうれしいという、そういう人に校長先生になってもらいたいと思います。

村上委員	私もそうと思いますが、リーダーシップと人事権、予算のあたり、確かにリーダーシップを発揮して、こういう学校を作りたいとなると、こういう人も欲しいとか、これくらいの予算が欲しいというふうに当然結びついてきますが、今必要なのは人事権なのかな、と思います。予算は確かに必要です。予算ももう少し柔軟な使い方ができればクリアできる問題は多いと思います。
小松部会長	自由に使ってくださいよという以上は、ちゃんと効果的に使ったかのチェックを教育委員会のほうはしてもらいますよという条件付きです。それは納税者に対する責任があります。それに比べて細かく、これについてはこういう予算、これについてはこういう予算というように今までのように決めたほうが、仮に悪くても、悪いのは私ではない、教育委員会だと、文句があるなら教育委員会に言えと言えるわけでしょう。今度は文句があったらあなたが答えなくてはいけないという問題になります。
今井委員	結局今は、「予算がないんです」とか「人事権がないんです」で逃げられる。予算がない、どこへ行っても大体お役所は予算がないと言われて終わりなので、その辺で逆に言うと逃げ場がなくなるから、やってもらえるのではないかなと期待は持っています。
小松部会長	だから私たちの改革のポリシーと理念は今、今井委員がおっしゃったように先生たちにはきついかもしれないですけど、結果的に校長のリーダーシップの競争になってきます。競争という言葉は僕は余り好きではない。競争というとかやっぱり皆さん嫌なので、ソフトに言うと、知恵比べと言いましょか。
今井委員	競争というのは足の引っ張り合いというイメージがあるんですね。
小松部会長	校長先生、あなたのやりたい学校づくりをやってくださいということが僕らの改革の一つです。今まで教育委員会がうるさく言ってできなかったでしょう。どうぞやりたい教育を、あなたの好きな教員を集めていいからやってください、ということです。
高橋委員	教育委員会も校長に対してちゃんと評価ができるようにできればいい。
小松部会長	いや、だから教育行政部会のもう一つの課題はこの評価システムを教育委員会がしっかりと確立してください、あるいはそのための研究開発をやってください。学校評価はもう既に川崎もやっているわけです。
高橋委員	地域によって、非常に授業がしにくい学校と、誰でも一応授業中静かにしてくれる学校と、中学なんかもう如実に違います。そうすると、そういう誰がや

	<p>っても大変な学校へ校長として行って、それで学力テストをやったら市内でも悪いほうだといって、それであなたは評価が低いというようなことであつたらまずいわけですね。そういう学校では、少しでも上げればそれはすごいというふうな、ちゃんとした評価をして、校長もやる気になって、そういうところへ行って自分がよくすればするほど評価される。そういうふうによく機能していくように教育委員会がやっていくべきだと思います。</p>
小松部会長	<p>まさに13ページの「教職員の力を伸ばす」の1番目の事業です。</p>
村上委員	<p>今ここで裁量権の拡大、人事と予算、このままでいくかと聞かれると私は予算についてはいいと思います。ただ、人事については集めるといっても、それこそ採用から含めて考えることは不可能なわけです。市内の教員の、極端に言えば奪い合いですね。例えば頑張った学校はすごいなというので目標にして、ほかの学校も頑張ってくれるという評価はあるかもしれませんが、根本的には余り解決できない。やはり今いる職場のスタッフの力をどう生かしていくか、という形でやっていくのがいいのではないかなという気がします。</p> <p>そのために何が今、課題になっているかという、新規採用の問題もあるし、それから初任者研修のあり方、それから頑張っている先生は表彰するとか、逆に指導力不足等の先生をどう研修していくかという、今、そういう課題が上がってきています。それが学校の中でまずどうしたらいいかという話になると思います。一気にどこかへ預けて研修してもらおうとかということではなく、職場の中でどうしていくかというときに教育行政がどうそこに支援してくれるか。それもなるべく迅速にやらなければならない。子どもたちは1年間、先生が力がつくまで待ってくれるわけではないですから。そういう意味では人事権について、今まで余り真剣に考えたことはなかったので、判断が着きかねます。</p>
小松部会長	<p>割とわかりやすいのは、先生の学校で例えば部活を強くしたい、しかし、残念ながら今の職員ではサッカー部を指導できる先生がいない。そうすると、うちの学校としては子どもたちがやりたい、校長としてもぜひサッカー部を盛んにしたいのでサッカー部の顧問になってくれる先生はいませんかという形でやるという学校づくりは、特色ある学校づくりに関係してくる。ある学校はアーチェリー場があるんです。もったいないからと今年度、アーチェリー部の指導できる教員といって引っ張ってきて、そうしたら途端に1年生の部員が増えて、あと2～3年したら強くなるのではないかって校長が喜んでいましたけれど。どこかの球団みたいに4番バッターばかり集める球団づくりなんていうのは愚の骨頂であって、やっぱり私の学校にはどういうプレイヤーが必要かというようなことを、地域の要望に応じて、まさにだから学校の特色づくりと関連しているわけです。その学校がある地域や、子どもたちはどういう状態にあるかに応じて、今のスタッフの中で作る。だから4番バッターは2人も3人もいらぬ。僕はもう少し、教育委員会も人事の担当の方は非常によくやって</p>

	<p>いらっしゃるのでしょうけれども、それは川崎みたいな大きなところで細かい事情まではわかりません。だから校長先生が具体的に地域では、確かによく働いてくれる職員だけでも4番バッターは2人いないから1人出すみたいなことをもうちょっとやったほうが組織力が上がるのではないかと思います。</p>
小松部会長	<p>もう8時40分になってしまいました。ほかのところでいかがでしょうか。田中さん、もう少し議論してほしい、特にリクエストはありますか。</p>
事務局(田中)	<p>本来の守備範囲を中心に十分に議論していただいたと思います。</p>
高橋委員	<p>21ページの一番上ですが、地域教育会議の見直しについては、悪かったから見直すような表現になっているので、発展的見直しの表現にさせていただきたいと思います。</p>
小松部会長	<p>今後のスケジュールですが、この次の部会は大体いつごろ何を議題にやりますか。</p>
事務局(田中)	<p>10月5日が策定委員会ですので、そのあとに専門部会になります。10月の終わりぐらいになるかと思いますので、また改めて日程の調整をさせていただきます。今回の専門部会で、一通り、御意見をいただきましたので、ほかの部会、策定委員会でもいろいろと御意見をお伺いしたうえで、修正をしたものを次回の第8回の専門部会と、続けて開く予定の第9回専門部会で協議していただくこととなります。日程調整のほうは改めて事務局のほうでさせていただきます。</p>
小松部会長	<p>あとお気づきだと思いますが、中間報告のときの「川崎市の教育の現況と課題」という部分が後ろの、27ページ以降に回っていますので、そういうスタイルのほうがいいのではないだろうかということでこのようにしてあります。</p> <p>この27ページ以降はまだまだつけ加えなければいけないですが、一応大きな構成としては現況と課題は後ろに、やや資料的な形で回すというふうな形にしたいというのがこの提案です。これについてはよろしいでしょうか。</p> <p>では議論もそうですが、実は国レベルでも大臣のプランが出たり、てんやわんやなところがあって、この辺もまた影響しそうな、細かいところはまだわかりませんが、さまざまな提案があったり、今の大臣は小学校でもちゃんと勉強しなかったら落第があってもいいのではないかみたいなことを新聞のインタビューで答えたりしてましたし、入学の弾力化とか63制の見直しとか、それからさっきの教員の養成の問題でも4年制ではなくて6年間でもっと専門的に養成した人を教員にしたいというふうなプランとか、何か随分いろんなことが入っていて、我々も、もしかしたらかなり大前提になっていた国</p>

	<p>の施策のある部分が変わる可能性があります。問題もまだ解決していませんし、何か嵐の中で家を建て増す作業を行うのでちょっと大変だと思いますけれど、ぜひ事務局のほうからもこの辺の動きについては、きょうも幾つか資料提供をいただきましたけれども、積極的に資料を提供いただきたいと思います。よろしいでしょうか。はい中村さん、何か。</p>
中村委員	<p>今の先生のお話で、その後どうなったんだろうと聞いていたんですけども、子どもの育ちと今の学校の633制というのが合っているかどうかというお話があったかと思いますが、小学校の高学年と中学校の1年生、その辺のあたりのとらえ方について、つまり今、現状で小学校と中学校の先生が連携していくものなのか、あるいは学習指導要領的な意味合いでもそうになっているのだろうかとか、いろいろ問題があるのではないかとということで、その辺の話はどうなのでしょう。</p>
小松部会長	<p>我々の施策の中でも小中一貫校、中高一貫教育の検討というのが事業として入って、203の中に何気なく入っていますけれども。</p>
中村委員	<p>何気なく入っていますが、例えばさっきも地域運営学校とか、こういうものが出てくると、例えば一つのところで、地域的に施設的にも先生が前におっしゃっていたように、連携するとすれば合体した、本当に施設まで合体したものでなければなかなかうまくいかないんだというお話を伺ったことがありますけれども、いかがでしょうか。</p>
小松部会長	<p>いや、ですから小中一貫校、中高一貫校についての流れはそうです。品川区は新しく、そういう一体型だけでなく、区全体で小中一貫教育をやろうというカリキュラムの見直しをしています。</p>
中村委員	<p>私たち保護者が学校にかかわって見てきた感じだと、先生方はどう感じていらっしゃるかわからないですけど、小学校の高学年から、やっぱり随分違ってくるなという気がするし、逆に中学校は1年生の育ちが、極端に2年生・3年生と違うなという、特別なケアが必要だなというのを感じるわけです。だから、免許制度が大きな壁というのがあるのでしょうかけれども、うまくそういう仕組みができるようなことが考えられないかなという気がしています。</p>
小松部会長	<p>大臣も義務教育学校とか言い出してきていますね。</p>
中村委員	<p>そうすると、だから免許制度とか何とかといろいろと変わってくるわけでしょう。</p>
小松部会長	<p>変わります。今、中高一貫はまだ教員免許の制度が科目別だからいいが。</p>

中村委員	そう、一緒だからできるけれども。
小松部会長	小中一貫は。
中村委員	できないですね。
小松部会長	教員免許法改正という選択をするとかなり難しい問題があります。何でもありの世の中です。それでは、今日はこの辺でよろしいでしょうか。
事務局(田中)	<p>小松部会長、ありがとうございました。本日の第7回教育行政専門部会は以上をもちまして終了させていただきます。委員の皆様にはお忙しいところ長時間にわたりましての御審議をいただきありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(終了)</p>